

胚移送方法

※原則として患者本人が運ぶ

※タンクは大・小の2種類があり,状況に合わせて使用(選択不可)

移送者	方法	メリット	デメリット
本人	<ul style="list-style-type: none"> 自家用車または電車・新幹線 飛行機は液体窒素持ち込み禁止のため不可 	<ul style="list-style-type: none"> 費用が安い [ガソリン代 高速代 JR運賃 など] 他人任せでなく安心 	<ul style="list-style-type: none"> 移動に時間がかかる
専門業者へ委託	<ul style="list-style-type: none"> 患者本人から直接業者に依頼(当院から連絡や手続きの代行は行わない) 	<ul style="list-style-type: none"> 患者自身に時間の負担がない 移送の教育を受けた専門のスタッフが対応 	<ul style="list-style-type: none"> 費用が高い 移送中トラブルが起こっても業者に責任を問えない
一般の運送業者(原則不可)	当院が確認したところ、クロネコヤマト・日本通運(ペリカン便)・佐川急便等で移送不可であったため移送の委託は原則不可		

◆ タンクの返却方法

- 運送業者(送料負担)
- 患者本人が持参

◆ 費用の例(広島ー東京)

運送会社でタンク返却のみ	約2000円
JR往復運賃	約4万円
委託業者	約11万円

◆ その他の費用

- 当院のタンク使用料: 10000円/日
- 液体窒素使用料:
 タンク大(10ℓ): 20000円
 タンク小(5ℓ): 10000円
 (液体窒素: 2000円/ℓ)